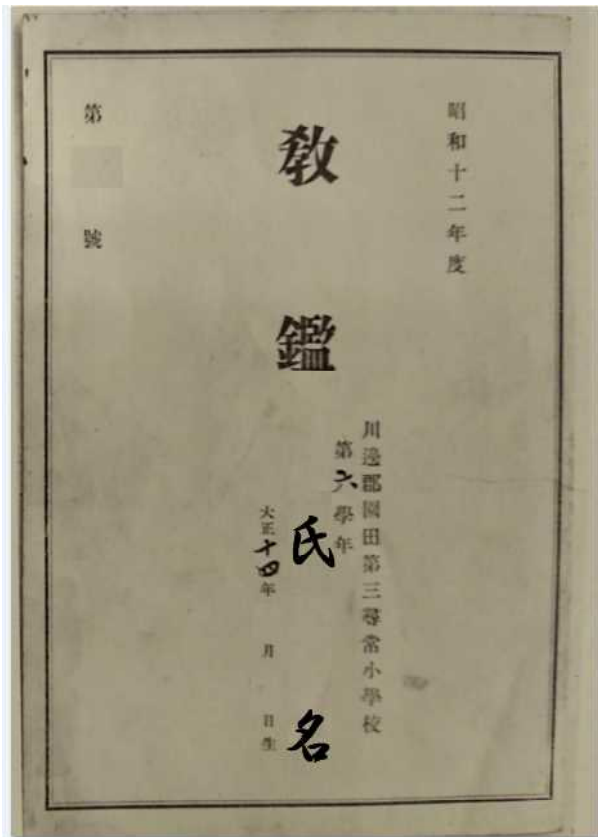


開校当時の様子③ お別れ式と新たな出発(下)



発足当時の教職員 右から3番目が金井校長先生



今の敷地に移った先生と子どもたちですが、校舎はできても、運動場は荒地のままでした。勉強半分、整地作業半分で、みんなで力を合わせて学校づくりに励んだそうです。真夏の暑い盛り、放課後遅くまで、土を運んだりローラーを引いたり、雑草抜きをしました。粘土質の堅い塊などもあって、作業は相当に難航しました。こうした経験が忍耐力や協力性を培うのに役立ちました。それもまたもうひとつの教育活動だったのでしょ。

教鑑には、「親を大事にせよ。親は我が身の始め、我が心の故郷、わが命の元である…一、師の教えを大事に 二、わが身を大事に 三、物を大事に 四、友を大事に 五、時間を大事に」と書かれ、全児童は毎日これを暗唱しました。儒教の教えが、教鑑(教えの鏡)として、色濃く反映されています。

教鑑…今でいう所の通信簿、あゆみです。

第1回卒業生は大正14年度生まれ